道北の短い夏が終り、降雪までの長い秋が続きます。

一次産業を主体とする本町にとって、天候は経営に大きく影響します。６月から５日間と晴れは続かず、現在も定期的に降雨があり、牧草どころか地面すら乾くことがない状態が続いています。留萌管内中南部の稲作の収量は標準か平均よりやや上らしいのですが、管内では野菜類、果物類も長雨で収穫は低調で、北部の酪農地帯は、大切な粗飼料の収穫が進まないため大きな打撃を受けています。とても深刻な状況です。

漁業においては現在、鮭漁が本番を迎えています。気候変動等による漁獲量が毎年心配され、夏に当初の来遊魚数は昨年より低いとの予想が発表されました。現在、留萌中南部の漁獲は低調とのことですが、管内北部の出足は昨年程度との情報で、今のところ安堵しています。持続可能な農業・漁業・林業などの一次産業の進展にむけて、関係団体とも強力に連携し中央に効果的な要請活動を続けていかなければなりません（衆議院議員総選挙も行われるようです）。これからの時期は、最も要請活動が活発となりますので、しっかりと準備をして臨みたいと考えています。

先日の９月７日、今年で７年目を迎えた高大連携事業「まちづくりシンポジウム」が開催されました。２日前から麗澤大学、筑波大学の教授・学生らが来町。周辺の自治体のまちづくりを視察後は、天塩高校２年生とともに、春から練り上げてきた地域活性化案の総仕上げを行いました。そして当日本番、人口

や産業の推移、近隣自治体との比較データなどを活用しながら「何が足りないのか」「補う部分は何か」「試作・実践してみた結果」など、政策提案の発表が行われました。高校生の各提案を「どう形にできるのか」を念頭に拝聴しましたが、例年の中でも力のこもった、素晴らしいプレゼンだったと感心しました。

昨年の地方創生☆政策アイディアコンテストで「夕日＋α？！」が全国で発表する栄冠をつかみました。この政策提案を形にしたいと、役場担当が高校生とともに形（流木・夕日ブランコ）にし、高校と町観光協会の共催によるイベント開催時（7月 20 日、天塩スカイライトフェスティバル）に展示できました。(河川公園に常設できなかったことは残念です)。短い期間でしたが、形として表現できたことは高校生にとって、大きな自信と誇りに結びつくとともに、天塩町にとっても、有形・無形のとても大きな財産となります。町を良くしようと考えた提案（実践から学んで得たもの）に対し、高校生の「町に寄せる期待」を裏切るわけにはいきません。高校生の成長は、私たちにとってかけがえのない財産です。これからも麗澤大学、筑波大学の皆さんの絶大なるご協力のもと、天塩高校の教職員の方々と高校生、そして役場職員が協働してマチを磨いていければと考えています。